

# 京都ブランドフォーラム 2011

京都の魅力为全国に発信

京都ブランド推進連絡協議会(京都府・京都市・本所)では、京都のまちが培ってきた伝統・文化の魅力を発信するため、全国の主要都市において「京都ブランドフォーラム」を開催している。今回は、京都と大分、東京で日本のおもてなしの心や京都の多彩な魅力について、さまざまな分野で活躍中のゲストを迎えて意見交換が行われた。



西 太一郎氏  
三和酒類(株)取締役名譽会長  
財フーズリズムおおいと会長

いかにして新しい感動を生み出すか

伝統を継続するには革新が、すなわち常に変化に目を向け、新しいものを開拓するセンスが必要だと思えます。当社では、昔はイメージの低かった焼酎を麦100%で造るという画期的な手法により、「大分の麦焼酎」を人気ブランドに育てました。その秘訣は、商品の香り、味覚、宣伝戦略を含め、今までない感動を提供できたことにあると自負しています。現在、私は大分の観光誘致にも努めています。私には、まだその魅力を感動にまで高める力に欠けているという反省があります。まずは各分野での「一流」をどうつくり育てていくかが課題。京都のおもてなしの心に学ぶところは大きいですね。



村田 吉弘氏  
静岡の井 代表取締役  
NPO法人日本料理アカデミー理事長

伝統とは時代とともに変化するもの

日本料理の伝統にもニーズに応じた革新が求められますが、これは決して難しいことではありません。自分がおいしいと思うものをお客さまに出せばいいだけです。自分自身の味覚も社会とともに変わってきているのですから。同様に、継承の方法も変化すべきです。料理の技も昔は「見て覚えろ」と言われましたが、これほど効率の悪いことはありません。料理人と学者で構成された日本料理アカデミーでは、京都大学と連携して日本料理のデータ化を進めています。日本料理が世界の料理となった今、料理人は「包丁一本」ではなく「パソコン一丁」で世界中どこへでも行ける時代なのです。



麻生 圭子氏  
エッセイスト

もてなしの心を学べば、もてなされ上手に

京都という街は、隠したり見せたりというバランスが、非常に巧みです。だから外からは敷居が高く見える一方で、知りたいという気持ちをあおり、憧れを募らせます。また、人々とのバランスのとり方が絶妙で、お客さんに対してはともにおもてなし上手です。その根底には茶の湯文化があります。茶事を経験してから料理屋さんに行くと、あらためてそのきめ細かい気配りが理解できます。おもてなしは本来、双方の気持ちに通い合っている成り立つもの。もてなされ上手になるためには、それを受ける側の知識と心の準備も必要だということ。京都に住むようになって実感しました。



平成24年  
2月16日開催

## 創造が生み出す伝統

京都創造者大賞5周年記念



高橋 智隆氏  
ロボットクリエイター

ヒューマノイドロボットは、職人仕事から生まれる

かつて学術的な研究材料でしかなかったロボットを、人間とコミュニケーションできるパートナーのような存在にしたいと思っています。そこで機械やデザインと人との関係を考えて時に必要となるのが、地道に丁寧につくりこむ職人の仕事です。本来、職人のあるべき姿とは、何百年も同じものをつくり続けるのではなく、最先端で常にチャレンジを続けること。そうすることで、人々のライフスタイルを変えてきたのです。今はまた、科学技術も産業も、人間性を中心に据えた発想へと移行しつつあると実感しています。



堀木 エリ子氏  
和紙作家

伝統の精神性を受け継ぎつつ、現代に生きるものづくりを

和紙の職人さんたちは「白い紙は神に通じる」という高い精神性をもち、1500年もの長い間、厳しい環境のなかで和紙を漉く伝統を育ててこられました。この尊い営みを途絶えさせてはいけないうと思つたのが、和紙の仕事を始めたきっかけです。そのためには、現代の生活の役に立つものをつくらねばと、燃えない・汚れない・破れない・色が変わらないという精度をあげた和紙を開発し、さまざまな空間に提案してきました。背景にある祈りの気持ちを受け止め、そこから「どう役立つか」を考えていくことで、文化は発展していくのではないのでしょうか。



吉田 孝次郎氏  
財祇園祭山鉾連合会 理事長

山鉾風流にこめられた祈りの姿を伝え続けたい

祇園祭は、平安京だけでなく全国の人々の安穩への祈りをこめて始まった祭です。やがて山鉾風流が登場し、神への祈りの気持ちをおの美しい音色と風流に表わしてきたのです。こうした先祖から受け継いだ諸行事を毎年行っているわけですが、現在は観光との一体化により、とすれば「まつり」本来の意味が忘れられてしまう危機感もあちます。私たちの使命は、神に祈る姿を美しく見せるといふ、信仰とひとつになった状態を伝え続けること。絶えず元の気持ちを検証しながら、いかにふくらませていくかが課題です。



平成23年  
9月20日開催

## 創造が生み出す伝統 京都創造者大賞2011

授賞式記念講演  
養老 孟司氏



社会と人間の関係と生物の進化は、よく似ています。生物は、進化の過程で急激な変化を遂げる時期が存在しますが、きっかけは遺伝子に違う生物を取り込む「共生」が絡むという説があります。異質のものが入り、うまく融合することで今までになく変化が起こる。これは人間の社会に示唆的です。つまり生物にとって伝統にあたるものは遺伝子、すなわちその個体の独自性だろうと。もつともこの共生という概念、相反する「自己」の意識が強い欧米ではなかなか受け入れられません。対して日本、ことに京都には古くからこの言葉が根づいています。それぞれの創造との関係は…。みなさんでお考えください。

不易流行と日本のおもてなしの心